

「私」と他人の幸福

—なぜ他人の幸せを喜ぶのか?—

○河野美鈴¹・橋本博文²

(¹安田女子大学心理学部心理学科・²安田女子大学心理学部ビジネス心理学科)

目的

他人の幸せを耳にしたときに、妬み嫉みといった負の感情を抱くことがある。それはなぜだろうか。本研究では、その理由の一つを「関係流動性」(Yuki, et al., 2007)に求め、人々が身を置く社会的環境と他人の幸福を喜ぶ(あるいは、喜べない)心理との関係を分析する。

方法

調査対象者 広島県内の大学生 202 名

質問項目 1) 幸福感尺度 (10 項目; 伊藤・相良・池田・川浦, 2003), 2) 関係流動性尺度 (12 項目; Yuki et al., 2007), 3) ゼロサム信念尺度 (8 項目; Joanna et al., 2015), 4) 文化的自己観尺度 (10 項目; Hashimoto & Yamagishi, 2016) を質問紙に含めるとともに, 5) 本研究独自に作成した幸せ税尺度 (13 項目) と, 6) 他人の不幸を望む度合いを測定するための場面想定法を用いたシナリオ質問紙 (三つの場面を提示) も含めた。所属学科, 学年, 性別, 年齢などのデモグラフィック要因についても尋ねた。

結果

相関分析 シナリオ質問紙への回答をもとに他人の不幸を望む度合いを測定するための尺度得点 ($\alpha = .77$) を算出し, その得点と他の心理尺度との相関を分析した。その結果, 他人の不幸を望む尺度の得点と, 参加者自身の幸福感の程度との間には有意な相関は示されなかった。しかし, 関係流動性尺度の下位尺度である「新規出会うのなさ尺度」との間には正の相関 ($r = .16$) が, またゼロサム尺度との間にも正の相関 ($r = .16$) が示された。幸せ税尺度のうち, 個人が得る幸せの総量には限りがあると考えられる心理を測定する「幸せゼロサム尺度」とは正の相関 ($r = .31$) が, また他人の幸せアピールに対して感じる抵抗感を測定する「幸せアピール抵抗感尺度」との間にも正の相関が示された ($r = .19$)。

重回帰分析 探索的ではあるものの, 社会特性としての関係流動性 (新規出会うの機会) と個人特性としての幸せアピール抵抗感の交互作用効果を分析するために, 他人の不幸を望む尺度

の得点を目的変数とする重回帰分析を行った。その結果, 両尺度の主効果が有意となり, 新たな出会いがないほど ($\beta = .17$), また, 幸せアピールに対する抵抗感が強いほど ($\beta = .22$), 他人の不幸を望む度合いも高くなる傾向が示された。さらに, 交互作用効果も有意となり, 図 1 に示すとおり, 新たな出会いがなくかつ, 幸せアピールに対する抵抗感が強い場合にとくに, 相手の不幸を望む度合いも高くなることが明らかにされた。

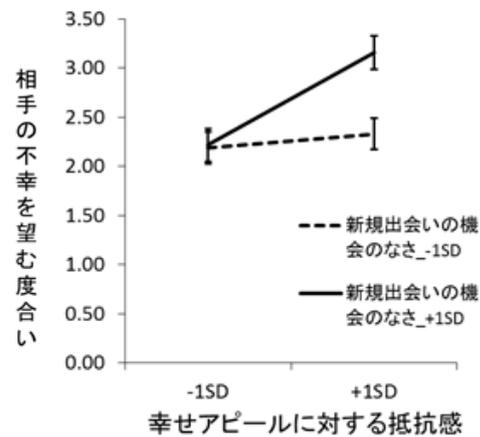


図 1 重回帰分析の交互作用効果

考察

他人の不幸を望む度合いを測定する尺度と幸福感尺度との間に相関が示されなかったことから, 他人の不幸を望む心理は, 現在感じている個々人の幸せの程度とは無関係である可能性が示唆された。他人の不幸を望む心理は, むしろ社会特性と関わりを持つものであり, 新たな出会いの機会がないような環境に身を置くことで生じる心理である可能性が考えられる。興味深いことに, そうした心理は, 他人に幸せをアピールすることに対する抵抗感とも関わりを持つものであった。人間関係が閉ざされているような環境に身を置き, かつ, 幸せは他人にわざわざアピールしなくてもよいと思う程度が強い場合に, 他人の不幸を望む心理も強くなるようである。これらの結果から, 他人の幸福を喜ぶようになるためには, 人間関係がより開かれた環境に身を置くこと, そして他人の幸せアピールに対する寛容性を高めることが必要となると考えることができる。